

令和3年緑化推進運動功労者

〔個人〕

おくの ひさかず
奥野 壽一

(大阪府河内長野市)

きむら まこと
木村 誠

(山口県阿武郡阿武町)

〔団体〕

けじょぬま ほんさくら かい
化女沼2000本桜の会

(宮城県大崎市)

とくていひ えいり かつどうほうじん
特定非営利活動法人

(群馬県渋川市)

しぶかわこういき きょうぎかい
渋川広域ものづくり協議会

でんしかぶしきかいしゃ あかぎじぎょうしょ
キヤノン電子株式会社 赤城事業所

(群馬県利根郡昭和村)

さくらしよくじゅ
まちづくり桜植樹プロジェクト
(桜さんさん会)

(千葉県市原市)

えぬびーおーほうじんかまくら
NPO法人鎌倉みどりのレンジャー

(神奈川県鎌倉市)

しんぼ はな うんどうじっこういんかい
新保ル・ロード花いっぱい運動実行委員会

(富山県富山市)

こすげむら
小菅村

(山梨県北都留郡小菅村)

じゅじゅ かい
樹々の会

(京都府京都市)

おおとうちょうりつおおとうちゅうがっこう
大任町立大任中学校

(福岡県田川郡大任町)

くまもとけんりつ あそ ちゅうおうこうとうがっこう かんきょうか
熊本県立阿蘇中央高等学校 グリーン環境科

(熊本県阿蘇市)

おくの ひさかず
奥野 壽一

大阪府河内長野市

＜功績の概要＞

同氏は、スギ・ヒノキ人工林約 30ha を所有し、50 年近くにわたり林業に携わり、150 年伐期を目標に繰り返す間伐・択伐を実施し、多面的機能が充分発揮された山林を目指し、地域の模範となる持続的な森林づくりを行うとともに、近代的な林業経営の確立や、地域材のブランド化に尽力し、地域林業の振興に貢献した。

旧河内長野市森林組合理事や大阪府森林組合代表理事副組合長等を務め、その高度な技術や経験を活かして活動してきた。また、貴重な森林資源を次世代に残すため N P O 法人の設立に尽力し、危険を伴う森林施業における安全作業の重要性を提唱する等、持続性の高い森林ボランティア活動の実践に大きく寄与した。さらに、平成 18 年からは、林業振興への貢献等により、林業後継者育成指導及び地域林業振興のための認定制度である「大阪府指導林家」に認定され、豊富な知識や経験を活かした指導に取り組み、多くの担い手育成に携わっている。

このほか、大阪府森林審議会委員やかわちながの森林プラン推進協議会会長として、行政や関係機関に地域住民の声や大阪府民全体による森林保全の必要性や森林の多面的機能の向上に向けた施策展開を提言し、今日の大阪府における豊かな森林づくりに大きく貢献している。

[個人]

きむら まこと
木村 誠

山口県阿武郡阿武町

＜功績の概要＞

同氏は、林業を通じた地域活性化に向けて集約化施業による長伐期良質材生産を目指し、自力で簡易作業路等を約 6,000m 開設し、林業労働力の省力化、低コスト化の推進など、長年にわたり施業の集約化、搬出間伐に精力的に取り組み、地域の模範となる林業経営を実践してきた。また、農業高校生のインターンシップ研修を率先して受け入れ、間伐実習に自身の山を提供するなど、林業後継者の育成にも尽力した。

さらに、地元林業研究グループ「阿武町林業振興会」の会長を 35 年間、「萩地域林業振興会連絡協議会」の会長を 22 年間、「山口県林業研究グループ連絡協議会」の会長を 20 年間務めるなど、リーダーシップを発揮し、地元のみならず山口県の林業研究グループ活動を牽引してきた。

なかでも阿武町林業振興会と地元漁協との連携による間伐材漁礁の設置は、全国初の試みとして大きな反響を呼び、その後、全国で同様の活動が実施される契機となった。

このほか、自然観察会などの都市住民との交流行事の開催、青少年を対象とした森林体験学習の実施など、幅広い活動を通して林業の振興と地域の活性化に大きく貢献している。

けじょぬま ぼんさくら かい
化女沼2000本桜の会

所 在 地	宮城県大崎市
代 表 者	会長 佐々木 哲朗

＜功績の概要＞

同会は、西暦2000年を契機に自然豊かな化女沼ダムに、市民一人一人のボランティア、郷土愛と奉仕の心によって2,000本の桜を植樹し、これを継続しながら21世紀には県内有数の桜の名所になるようにと、平成11年4月に結成した。

翌年の平成12年4月に行われた植樹式から20年にわたり活動を継続し、これまでに約2,800本の桜をダム湖周辺に植樹し、下草刈りや病虫害防除等の地道な環境整備活動を精力的に実施している。

また、市民の憩いの場でもあるダム湖周辺の環境美化及び保全の意識を高めてもらおうと、地元住民や企業とともに実施するダム湖周辺の清掃活動や、地元小学校へ環境整備の必要性に関する出前授業（生徒との清掃活動を含む）を毎年実施するなど、様々な機会を通じて、水辺環境保全・緑化活動の普及啓発に大きく貢献している。

さらに、行政機関と連携し、自然環境、文化財等と住民のふれあいを目的に展開されているトレッキングコースの誘致に努めるなど、自然と人間が共存し、化女沼周辺の環境が持続的に維持されるような仕組みづくりにも取り組んでいる。

とくてい ひ え い り かつどうほうじんしぶかわこういき きょうぎかい
特定非営利活動法人渋川広域ものづくり協議会

所 在 地	群馬県渋川市
代 表 者	会長 きし くに 岸 邦夫

＜功績の概要＞

同協議会の発足は平成12年で、市内各所で草花や市の花である「アジサイ」を主とした花木によるまちづくりに取り組んでいる。

平成15年から、高速道路のインターチェンジ周辺や国道の中央分離帯等へのアジサイの植栽を開始し、駅前広場の花のプランターの手入れを行うなど、景観づくりや街の美化にも貢献しているほか、市内各所や他県にも苗木を配布してアジサイを通じた地域間の関係を築いている。

また、平成21年には、活動拠点となる小野池あじさい公園に隣接する里山1haを借り、公募した130人の市民ボランティアがサクラの苗木を100本植樹するとともに、四季折々の花木が楽しめる散策路の整備を進め、地域の環境保全につなげるほか、イベント開催やガイド活動等を通じて多くの方々との交流を図っている。

さらに、園児や児童と進める花育やゴーヤ苗の配布、グリーンカーテンの指導、実ったゴーヤ等での料理の開発・普及にも取り組み、花と緑を通じて地域の活性化に貢献している。

でんしかぶしきかいしゃ あかぎじぎょうしょ
キヤノン電子株式会社 赤城事業所

所 在 地 群馬県利根郡昭和村

代 表 者 代表取締役社長 はしもと たけし
橋元 健

<功績の概要>

同事業所は、平成11年4月に操業開始し、自然と共生をコンセプトに、工場緑化に取り組んでいる。サクラ、サツキ、サザンカ、モミジなど約60種15,000本の植樹された緑地は、定期的に整備され、周辺環境と調和した景観である。

道路に面した約600メートルにわたり地元昭和村の木であるサクラが1,000本以上植栽され来訪者のやすらぎと癒やしになっているほか、工場敷地周辺に新たにサクラを200本植栽し工場緑化を推進している。また、地元昭和村特産のリンゴの木が植栽され、収穫の際には、社員食堂や来訪者等へ提供されている。なお、環境への取組としては、工場の食堂で発生する生ごみを堆肥化し植栽に活用している。

さらに、社員全員参加による「緑化委員会」を組織し工場周辺の清掃活動等の取組を行っているほか、昭和村の各種イベントへの積極的な参加、地元小中学校を対象とした工場見学会の開催により企業の環境への取組と工場緑化の紹介による環境教育への寄与といった地域貢献活動を行っている。

以上のように、同工場は設立時から「共生」というキヤノングループの企業理念のもと、緑化の推進に取り組んでいる。

まちづくり ^{さくらしよくじゅ}桜植樹プロジェクト (^{さくら}桜 ^{かい}さんさん会)

所 在 地	千葉県市原市
代 表 者	^{こうち} 河内 ^{しょうぞう} 昌蔵

<功績の概要>

平成 16 年度に市原市の市民提案事業として養老川沿いのサクラの植樹が提案され、その実施団体として同会は設立された。4 地区計 2.2km の区間に約 200 本のサクラを植樹するとともに、多くの方に愛着を持ってもらえるよう、近隣の小中学生が詠った詩歌の掲示や、植樹したサクラへの里親の想いを記載したミニ看板の取り付けを行い、世代や時空を超えたコミュニケーションの形成に貢献している。

平成 25 年度からは桜並木の間に年間数体の頻度で芸術的オブジェを設置し、今後 20～30 年かけて更に充実させていく予定であり、万葉集で詠われた養老川河口付近の情景の歌詞看板の設置や、養老川の水運で活躍した川船の復元模型の制作など、養老川の歴史を次の世代に伝える取組も行い、文化と芸術の里づくりに大きく貢献している。

また、毎年 4 月～11 月に月 4 回の頻度で、桜並木周辺の管理と除草を継続的に行ってきた結果、以前とは見違えるような景観となり、遊歩道を往来する者の増加や、これらの長年にわたる地道な活動に感銘を受けた作詞家によるサクラを手入れする人々の願いや苦労を表現した歌「養老桜」が作られるなど、活動に対する賛同・支援も増え、地域の活性化や緑化活動の普及啓発にも貢献している。

[団 体]

えぬびーおーほうじんかまくら

NPO法人鎌倉みどりのレンジャー

所 在 地 神奈川県鎌倉市

代 表 者 理事長 やまうち 山内 まさとし 政敏

<功績の概要>

同団体は、鎌倉市緑化啓発事業の一環である「緑のレンジャー・シニア」講座を修了したメンバーによる自主団体として平成9年から活動を始めた。地域における緑の整備・保全及び植生調査、緑の保全のための知識と作業の普及啓発事業等を主な事業としており、平成27年にはNPO法人として認証されている。

平成9年の自主団体結成以降、源氏山公園をはじめとした市内の公園・緑地等の樹木剪定等の管理作業等を行っているほか、平成28年からは鎌倉市教育委員会との協働事業として市内5か所の史跡内の緑地管理事業を、令和元年からは神奈川県立大船フラワーセンターにおける植物管理事業を開始するなど、活動の幅を広げている。

また、複数の自治町内会等との協働により、緑地等の手入れを行っており、市主催講座の講師として樹木の維持管理に関する技術指導を実施するなど、自主団体としての期間を含め、長きにわたる緑地保全・緑化啓発等を通じて、同市の緑豊かなまちづくりに大きく貢献している。

しんぼ はな うんどうじっこういいんかい
新保ル・ロード花いっぱい運動実行委員会

所 在 地	富山県富山市
代 表 者	実行委員長 みなみ 陽 けんゆう 堅友

＜功績の概要＞

「新保ル・ロード花いっぱい運動」は、平成 11 年リハーサル国体を機に始まり、今日まで受けつがれている校区の緑化推進の活動である。全国から訪れるたくさんの方々を心から歓迎するとともに、立山連峰が一望できる一等地にふさわしい景観となるよう行われる美しい環境づくり活動でもあり、このホスピタリティ文化（思いやり・心からのおもてなし）は、校区住民の自慢となっている。

同運動は、校区住民の大多数が参加する活動として、住民のみならず、企業・事業所、地元プロサッカーチームの選手の協力を得て、県道富山・笹津線の沿道の植樹柵やプランターにカタバミ等の花を飾ることによって、日々道行く地域の人をはじめ、県総合運動公園への来園者や、富山空港利用者など多くの人々の心に安らぎと癒しを与えることを目的に展開している。

毎年 6 月初めの新保ル・ロード花いっぱい運動開会式に苗、植えを行い、8 月の富山ふるさと美化大作戦、11 月のふるさと新保美化大作戦に沿道の一斉除草を実施するほか、冬場を除く年間を通して除草や水やり等の管理を継続的に実施し、地域緑化による安全・安心で住みよい地域づくりに貢献している。

こすげむら
小菅村

所 在 地	山梨県北都留郡小菅村
代 表 者	村長 ふな き 船木 なおよし 直美

＜功績の概要＞

同村は、東京都と神奈川県を流れる多摩川と相模川の源流部に位置し、土砂の流出や災害を予防するとともに清浄な水資源の確保を図るため、長年にわたり、豊かな源流域の森林環境の保全と重要性の普及活動に取り組んできた。

昭和 62 年から「多摩源流」をキーワードに村づくりを行っており、貴重な水資源を守るための森林保全活動、「多摩源流まつり」等の源流を生かした観光イベントの充実など、森林環境の保全と観光推進事業を組み合わせ、都市と源流域の交流事業を展開している。

平成 13 年には源流の村づくりを推進させるためのシンクタンクとして多摩川源流研究所を設立し、源流元気再生事業に取り組んだ。さらに平成 22 年には実働組織として NPO 法人多摩源流こすげが設立され、源流域の資源を活用し、多摩川流域の上下流交流事業の拡大に努めている。

また、地域の重要な産業である林業の活性化を図るため、村内の地域材を活用したモデル的な木造公共施設の整備に取り組み、豊かな森林資源の P R に努めている。

同村の取組は、企業や周辺市町村との広域連携にまで拡大しており、森林資源を中心とした流域の環境保全に大きく貢献している。

[団 体]

じゅじゅ かい
樹々の会

所 在 地 京都府京都市

代 表 者 代表 いちせ ひろこ
一瀬 裕子

＜功績の概要＞

同会は、平成11年3月に「京北の森を守るためできることをしたい、私たち女性も林業についての知識を深め、男性と同じ立場で林業に参画したい」という思いを抱いた同地域の女性グループが結成した。

結成当時から取り組んでいた、つる細工作りや山菜採り、シイタケ、マイタケ栽培に加え、平成17年に市有林が京都市合併記念の森として市民に開かれたのを機に、京都市合併記念の森で、多様な樹を育てる「樹々の里親プロジェクト」、キノコ栽培に適した林内環境整備、ため池周辺の湿地植物群落の復元、松枯れ跡地の広葉樹林化施業、自然観察会など様々な森づくり活動をしてきた。

また、京都市合併記念の森での「繋げる森づくりプロジェクト」に参画し、地域で取り組む環境保全学習にも貢献している。同団体代表がこのプロジェクトに参加した際に山で飲んだクロモジ茶の味わいに魅せられ、クロモジ加工品の商品開発を企画し、現在では、クロモジを使用した茶や入浴剤等を林業関係のイベント等で販売している。

これら森林総合利用に取り組み、林業や京北地域の魅力発信を積極的に行うことで、地域に活力を与え、地域の山づくりや森林保全、緑化推進に大きな貢献をしている。

おおとうちょうりつおおとうちゅうがっこう
大任町立大任中学校

所 在 地	福岡県田川郡大任町
代 表 者	校長 奥 浩幸 おく ひろゆき

＜功績の概要＞

同校は平成元年より学校を挙げた花や緑の植栽活動を年間で8回実施している。

同校の活動は昭和61年に校舎の全面改築に伴い花壇が整備されたことを契機に、生徒が中心となり花壇の定植活動を推進した。その成果が認められ昭和63年の自治大臣賞を皮切りに様々な賞を受賞した。

平成元年に同校のみで行われていた活動を広げ、異年齢の子供たちを招いた「花いっぱい運動」を開始し、花についての学習や生命を大事にする心、郷土を愛する心を育みながら協働で作業を行い、今では30年以上も続く伝統ある活動として位置付けられている。

同校の活動は学校内に留まらず、育てた苗は小学校や地域等に配布され町全体の緑化の推進に大いに貢献し、同校の活動に触発された町民が「花と緑の会」を立ち上げ、町を挙げての花いっぱい運動を行うきっかけとなり、中学校を中核とした活動の輪が町全体に浸透していった。

また、同校は町が主催する緑化活動にも積極的に参加し、町の緑化環境の一層の充実に大いに貢献している。

さらには、育てた苗の一部をおおとう桜街道道の駅で販売し、販売金額の全てを被災地へ送る活動を行い、社会貢献の面でも大いに貢献している。

くまもとけんりつ あ そ ちゅうおうこうとうがっこう かんきょうか
熊本県立阿蘇中央高等学校 グリーン環境科

所 在 地 熊本県阿蘇市
代 表 者 校長 酒井 一匡

＜功績の概要＞

同校は、再編・統合前の阿蘇清峰高校、阿蘇農業高校での活動を含め 50 年以上継続して、小柏^{おがしわ}演習林（約 25ha）での森林整備実習や、阿蘇の草原を守るための輪地^{わちき}切り、輪地^{わちや}焼き、野焼きを実施している。

平成 25 年からは、高齢化や担い手不足により減少する阿蘇の草原や、草原を由来とする生態系や自然環境、地域文化が危機的状況にある中、草原の維持・再生や保全の啓発を目指し草原再生プロジェクト班を立ち上げて様々な活動に取り組んでいる。

また、平成 24 年から地元小学生の草原学習に役立てるための「草原植物図鑑」を作成するとともに、平成 26 年からは放棄された草原を実際に再生させる取組を開始し、7 年間の植生調査を通じて、生物多様性の回復が確認されている。

さらに、草原から刈り取った茅と演習林から搬出した間伐材を活用した様々な物づくりに挑戦しており、製作した茅葺テラスでは、小中学生や保育園児向けの茅葺き製作体験会を開催し、草原への理解を広めている。

このほか、熊本地震で被災した阿蘇神社の復旧活動に力を入れており、演習林から拝殿や鳥居で使用する木材の伐採搬出を行うなど、森林資源を活用した地域貢献活動にも尽力している。